

# 住

## 愛知県左官業協同組合

# 伝統的建築文化を守るため、 なくしてはならない技法

### 左官は天皇から送られた称号

左官とは天皇の住まいの外郭に美しく堅牢な壁をつくった許勢眞壁連の孫波多哀が西暦645年に天皇から賜った称号だとされています。当時、壁づくりはいまでいう最先端の技術であり、その職に携わることができたのは、優れた技術を持っていた人であったようです。しかしその後も寺院や土塀など、一部の建造物にしか土壁は見られません。平安時代における貴族の住まいである寝殿造りにも土壁はほとんど見られません。

日本の住まいに広く土壁が用いられるようになるのは室町時代の末期ころからです。当時、茶の湯がはやり、それに伴い茶室がつくられるようになったことが土壁を発展させたといわれています。織田信長が桶狭間の戦いの戦勝のお礼として熱田神宮に築地塀を奉納したのは有名です。それでも江戸時代の庶民の家の代表でもある長屋の隣家との境は、板壁が一般的でした。落語にも大工さんはよく登場しますが、それに比べて左官はあまり登場していません。



### 漆喰で創り出す大理石状の柱や壁

明治になると煉瓦やセメントといった素材が西洋から導入され、新しい技術を産み出していきます。その一つが漆喰を使った大理石のような壁や柱などです。あるいはセメントと石を混ぜて塗った後で、表面を磨いて大理石のようにする工法も考案されました。

組合が結成されるきっかけは明治24年の濃尾地震からの復興でした。最初は地域ごとにつくられていた組合ですが昭和7年に各組合を統合し、昭和11年に県の認可を得ました。戦争中は統制組合となりましたが、昭和22年に愛知県左官工事工業組合を結成し、昭和37年に現在の組合名となりました。

最近では壁を塗るのではなく、工場生産された壁を張り付けるだけの住まいが増えています。しかし、お城や寺院などの修復にパネルは使えません。こてを使い壁を塗る技術が失われたならば、貴重な歴史的建造物の修復ができなくなってしまいます。組合としては新しい技術の研究と共に、伝統的技法の伝承にも力を入れています。



#### DATA ■愛知県左官業協同組合

所在地：北区城東町6-141

- ・明治24年：現在の母体となる組合結成
- ・昭和7年：名古屋左官組合設立
- ・昭和22年：愛知県左官工事工業組合
- ・昭和37年：愛知県左官業協同組合